



唐戸山相撲で志賀中準優勝

第48回羽咋郡市中学校相撲大会は6月2日(火)に羽咋市の唐戸山相撲場で行われました。羽咋郡市の6校の生徒1800人が応援合戦を繰り広げました。団体戦は志賀中が決勝戦で羽咋中に惜しくも敗れ準優勝、富来中は3位でした。会場はフラヌバンドや応援団による声援を受け熱戦となりました。個人戦では中間慶君(富来中)が2位、山本大貴君(富来中)が3位となりました。

INDEX

- あなたの心の声が聴きたいー。2～3
- まちかどルポ 10～11
- 情報パーク 12～15
- 健康カレンダー 16
- 生涯学習だより 17～19

2009

7

July

号

No.47

広報

じか

ShikataTown



あなたの心の声が聴きたい――。

志賀町手話サークル「しゅわッチ」

私たち耳が聞こえる人は、普段の生活の中で聞こえてくるさまざまな音によって情報を得ています。もし、自分の耳が聞こえなかったらこの世界はどのように感じるでしょうか。

今回は、志賀町手話サークル「しゅわッチ」代表の町出春美さんと手話通訳の長門幸子さん、聴覚に障害のある南秀樹さんにお話を伺います。

―サークルではどんな活動をされていますか。

町出 「しゅわッチ」サークルの活動は、毎週金曜日の午後8時から、文化ホールで手話の学習のほかに聴覚障害者と手話を使つての交流やさまざまな情報交換を行っています。1年を通じては、お花見や日帰り旅行、レクリエーション行事などを通じて会員の交流を深めています。

―どうして手話をやってみようか。

町出 今から13年前の平成8年に志賀町で手話の講習会がありました。私は娘が生まれつきの難聴とわかって間もなくだったので、コミュニケーションをとるために手話を覚えたいと思っていたところに講習会があることを知り、参加することにしました。

講習会には、単純に手話をしてみた

いという人や、当時、

人気のあったドラマの影響などから多くの人たちが集まりました。

最後の講習会のあと、参加者を集めた交流会が開かれ、このまま終わってしまうのは寂しいという声から志賀町にもサークルを作ることになりました。

南 私の場合は、志賀町に手話サークルがなくとても不便だと感じていました。わざわざ羽咋市にある手話サークルまで通っていました。もつと近くにあればいいなと思っていたところにサークルが立ち上がったことを聞き、参加するようになりました。

―サークルの名前の由来を教えてください。

町出 全国でも手話のサークルが作られたときに必ず候補にあがるんですけど、手話をする仲間たちを省略して「しゅわッチ」なんです。

―なるほど。なんとなく親しみを感じます。ところで、南さんはしゅわッチをど



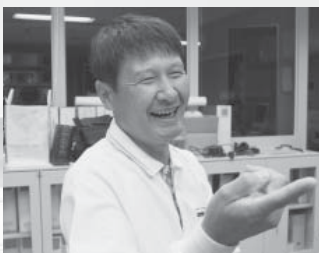
「しゅわッチ」代表の町出さん

う思いますか。

南 サークルができたおかげで、コミュニケーションがとれるようになってきました。健聴者の手話の技術が上がってきたし、自分も色々な単語がわかるようになりました。

—手話の技術とはなんですか。

南 手話は県内のろう学校では、10数年前まで使うことが禁止されてきました。手話は人それぞれ微妙に違いますから、「この人はこんな使い方をしているのか」、「こんな使い方があるんだ」というふうにかかってくるんです。手話は方言みたいなものだし、これが正しいというのはないんです。ですから、仲間たちとコミュニケーションをとると視野が広がって、理解力が養われるわけです。



南さん

—手話が人それぞれ違うことを初めて知りました。

今後サークルではどういった活動をお考えですか。

町出 今後も手話技術をさらに高めてい

くことやほかのサークル・団体と交流する場所があれば、積極的に参加していきたいですね。サークル会員で月2回、太鼓の練習もしているので、披露する機会があれば行きたいし、色々な人たちの交流が出来たら嬉しく思います。

南 将来的には、さまざまな場所に手話通訳がいる社会になるように頑張りたいです。あと、まだ差別があるのでそういった差別がない世の中になればいいなと思っています。

町出 今年一番重要な活動としては、映画の上映会を成功させることがあります。全日本ろうあ連盟は創立60周年を迎えることを記念して、「ゆずり葉」という映画を制作しました。6月から全国各地で上映され、石川県では金沢と小松と能登の3カ所で上映されます。能登で唯一の上映会場に選ばれた志賀町では、羽咋郡市ろうあ協会と手話サークル、要約筆記サークルが協力して上映の準備に向けて全力で取り組んでいます。「ゆずり葉」の映画を一人でも多くの皆さんに観てもらい、聴

覚障害者に対する理解を深めてもらいたいというのが一番の希望ですね。



通訳の長門さん

「しゅわッチ」会員大募集

随時会員を募集しています。気軽にあいさつから手話を始めてみませんか？入会を希望する人は事務局の吉野まで電話してください。お待ちしております。

☎090-2123-7866

8月2日(日)に志賀町文化ホールで聴覚障害者が制作した映画「ゆずり葉・君もまた次のきみへ」が上映されます。

解説は下記のとおりです。

◆とき 8月2日(日) 開場午後1時〜 上映午後1時30分

◆ところ 志賀町文化ホール

◆チケット 大人1,200円(当日1,500円) 小人800円(当日1,000円)

◆その他 幼児以下無料(保育が必要なのは、事前に申し込みが必要です)

◆チケットの販売・問い合わせは

志賀町社会福祉協議会

☎32-1363 FAX32-3277

【ろう(あ)者】

ほとんど耳が聞こえない(話せない)人の事。日常的に主として手話を「コミュニケーション」手段としている人たちがいます。

解説

聴覚障害者の人権を守ってきた全日本ろうあ連盟が初の映画制作に取り組み。耳の聞こえない生い立ちの中で同じ障害の次代を支える学習塾や映像教材を推進する早瀬憲太郎が初監督に挑戦している。撮影には映画作りのベテランが結集。ロケには手話通訳者が同行し、「ヨイ、スタート！」に白い旗「カット！」には赤い旗を振るなどの創意工夫で、聞こえない監督やキャストと聞こえるスタッフやキャストとの意思疎通を図りながら、熱い思いを実現させている。

一組目の恋人には、ろう演劇界のリーダーとして全国的な公演活動で活躍する庄崎隆志。その相手には再結成で話題のSPEDの今井絵理子、聴覚に障害を持って生まれてきた息子への母親としての思いを込めて、早瀬監督との偶然の出会いから出演を決意。

2組目のろう同士の恋人には、新進気鋭の福嶋一生と、モデル・俳優を始める津田絵理奈。ろう者初の薬剤師役に挑戦するのは貴田みどり。また、ろう演劇界のベテランの井崎哲也や大和田伸也が熱演。物語には、大久保鷹、石井めぐみ、山口果林そして手話を取り持つ縁で友情出演する西村知美と林家正蔵が登場して爽やかな彩りを添えている。

